

オリジナル水稻品種「ゆめさんさ」, 「かけはし」の導入条件と地域特性

星 野 圭 樹・小笠原 義 明*

(岩手県農業研究センター・*久慈地域農業改良普及センター)

Regional Defferences of Preference to the New Rice Varieties 'Yumesansa' and 'Kakehashi'

Keiki HOSHINO and Yoshiaki OGASAWARA*

(Iwate Agricultural Research Center ・
*Kuji Regional Agricultural Extension Service Center)

1 は じ め に

岩手県では、平成4年度に県オリジナル水稻品種「ゆめさんさ」、「かけはし」を奨励品種に編入し、作付面積の拡大に努めているが、いまだ市場での評価を獲得する数量を確保するに至っていない。

本報告は、両品種について、地域別に生産者の意向を把握することによって、今後、きめ細かな推進方策を講じることが可能になると考え、栽培適地の4市町を対象に行ったアンケート調査を取りまとめたものである。

2 試 験 方 法

(1) 調査対象の選定

「かけはし」は、耐冷性が強く、早生で良質であり、複合経営における高品質安定生産、大規模稲作経営における昨期拡大等の観点からの導入が有効であると考え、盛岡市以北の次の地域を選定した。

i 地域：野菜複合地帯の重点推進集落 (60戸)

n 地域：大規模稲作農家 (60戸)、便宜上「地域」と扱う。

「ゆめさんさ」の栽培適地は、「ひとめぼれ」など作付割合が高い既存品種との組合せによる導入・拡大の推進が有効であると考え、盛岡市以南の次の地域を選定した。

s 地域：「ひとめぼれ+ゆめさんさ」の重点推進地区 (60戸)

h 地区：「ゆめさんさ」を産直している地区 (104戸)

なお、調査項目は地域間の比較ができるように、両品種ともに共通とした。

調査票の配布・回収は、関係する農協の協力を得た。ただし、n地域については、郵送により配布・回収する方法をとった。4地域あわせて294戸を対象とした調査であったが、回収率は77.6% (228部) となった。

(2) 地域別の経営耕地の概要

水田面積は、1~3haが41.1%, 1ha未満が30.6%, 3~5haが16.9%となっており、回答者の平均が236.4aであった。地域別には、i地域が75.2a, n地域が578.9a, s地域が132.7a, h地域が219.3aとなっている。

水稻作付面積は、1~3haが40.6%, 1ha未満が37.1%, 3~5haが17.9%, 回答者の平均が184.1aであった。地域別には、i地域が53.7a, n地域が445.2a, s地域が112.1a, h地域が171.9aとなっている。

品種構成は、「あきたこまち」が最も多く43.1%, 「ひとめぼれ」が27.7%, 「ゆめさんさ」が11.0%であった。地域別には、i地域で「あきたこまち」49.5%, 「かけはし」33.1%, n地域で「あきたこまち」79.4%, 「かけはし」11.4%, s地域で「ひとめぼれ」53.3%, 「ゆめさんさ」35.6%, h地域で「ひとめぼれ」53.7%, 「あきたこまち」15.7%, 「ゆめさんさ」14.8%となっている。

普通畑面積は、1ha未満が最も多く83.6%, 回答者の平均が52.4a, 地域別にはi地域が112.3ha, n地域が110.1a, s地域が10.1a, h地域が13.8aであった。

3 試験結果及び考察

(1) 意識得点による地域の比較

オリジナル水稻品種の導入・定着に関する設問の中から、推進主体として「県」、「農協」、「生産者」の3者について意識得点を算出して比較したところ、n地域では他の地域と異なり、「県」や「農協」に比べて「生産者」が推進主体であると考えられる度合いが強い (表1)。

(2) 主成分分析を用いた地域の比較

オリジナル水稻品種の導入・定着について、意識の特徴把握や地域特性を比較するため、関連する11の設問を変数

表1 導入・定着に関する地域別意識得点

項 目	i 地域	n 地域	s 地域	h 地域
①作付面積の拡大は、育成者である県が責任をもって取り組まなければならない。	0.8	0.1	1.0	0.9
②作付面積の拡大は、農協など農業団体が中心となって取り組まなければならない。	1.1	-0.0	0.9	0.8
③作付面積の拡大は、生産者が主体的に取り組まなければならない。	1.1	1.1	0.7	0.7

注. 1) i 地域及びn地域は「かけはし」、s 地域及びh 地域は「ゆめさんさ」の適地である。

2) 表中の意識得点は、「そう思う」に2点, 「まあそう思う」1点, 「どちらともいえない」に0点, 「あまりそう思わない」に-1点, 「そうは思わない」に-2点を与えた回答結果の平均値である。

表2 導入・定着に関する主成分分析結果

固有ベクトル:	第1主成分	第2主成分	第3主成分
固有値:	3.363	1.370	1.060
寄与率:	0.306	0.125	0.096
累積寄与率:	0.306	0.430	0.527

表3 地域別の主成分得点

	期待度	積極性	反応度
i地域	0.238	-0.143	0.260
n地域	-0.501	0.596	-0.249
s地域	0.035	0.005	0.011
h地域	0.134	-0.243	0.012

注. 第1主成分を「期待度」、第2主成分を「積極性」、第3主成分を「反応度」とした。

として扱った主成分分析を行った(表2)。

ここで、第1主成分は関係機関・団体などの推進体制への「期待度」、第2成分は生産者の「積極性」の度合い、第3主成分は市場動向への「反応度」と定義する。

1) 作付けの有無による比較

地域別に主成分得点で比較すると、「期待度」及び「反応度」はn地域が最も低く、「積極性」はn地域が最も高くなっており、他の地域とは逆の傾向が見られた(表3)。

また、オリジナル水稲品種の作付けの有無別に比較すると、i地域ではすべての主成分において両者に同じ傾向が見られるが、n地域とh地域では「反応度」において両者の意識が逆転し、s地域では「積極性」についても両者の意識が逆転している(図1~4)。

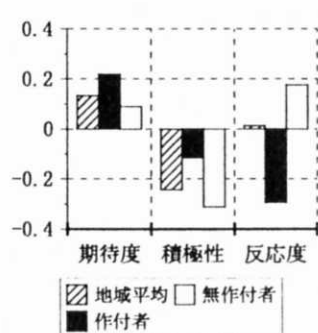
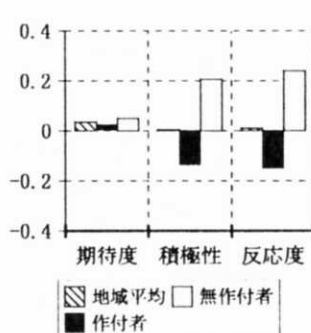
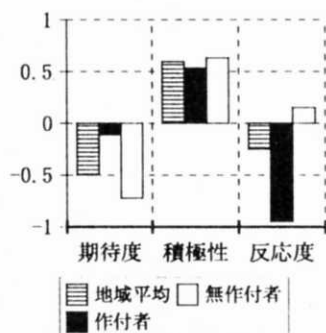
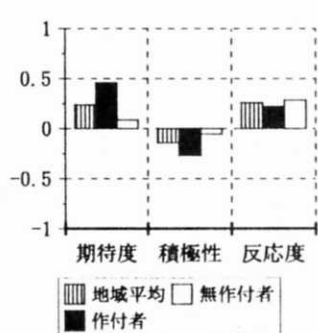


図1 作付別比較(i地域) 図2 作付別比較(n地域) 図3 作付別比較(s地域) 図4 作付別比較(h地域)

注. 「作付者」及び「無作付者」は、オリジナル品種の作付けの有無で分けた(図1~4)。

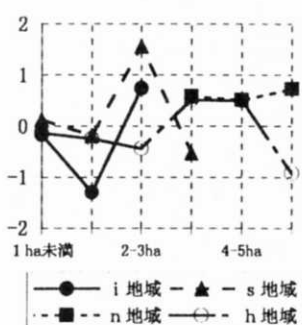
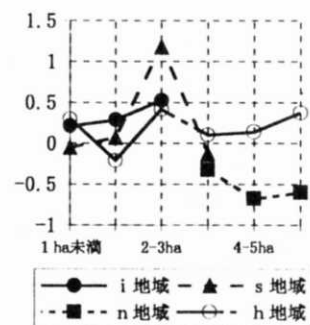


図5 水稲作付規模別の期待度 図6 水稲作付規模別の積極性

2) 水稲作付面積の規模による比較

同一地域内において、水稲作付面積に1 haごとの階層を設定し、主成分得点により比較した。

その結果、「期待度」は、i地域、s地域ともに規模が大きいくほど高くなっているが、h地域では「1~2 ha」層で低くなっている。

また、n地域の「3 ha以上」層では、h地域とは逆に規模が大きくなるにつれて低くなる傾向が見られた(図5)。

「積極性」は、i地域、s地域ともに「1~2 ha」層で低くなるものの、「2~3 ha」層で高くなっている。

一方、h地域では、「2~3 ha」層まで低下する傾向にあり、「3~5 ha」層になるとn地域と同様に高くなるものの、「5 ha以上」層では低くなっている(図6)。

4 ま と め

オリジナル水稲品種の導入・定着条件について、重点推進地区を対象に行った本調査からは、i地域(野菜地帯)とn地域(大規模稲作農家群)では互いに反対の意識を持っており、同じ稲作地帯のs地域とh地域においてもオリジナル水稲品種の作付けの有無による意識の違いが見られた。

さらに、水稲作付面積の階層別比較においても、地域による相違点が見受けられ、水稲作付面積以外の要因が意識の決定に影響を与えているものと推察される。

今後は、それぞれの意識を決定する要因の解明を進めるとともに、生産者のタイプ分けなどを行うことによって、さらに詳細な指導資料として提示できるものとする。